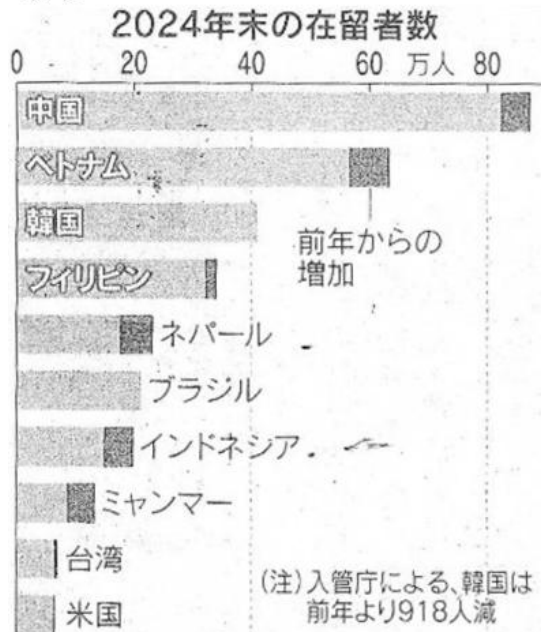


週間国際経済 2025 (5) No.411 03/14~03/31

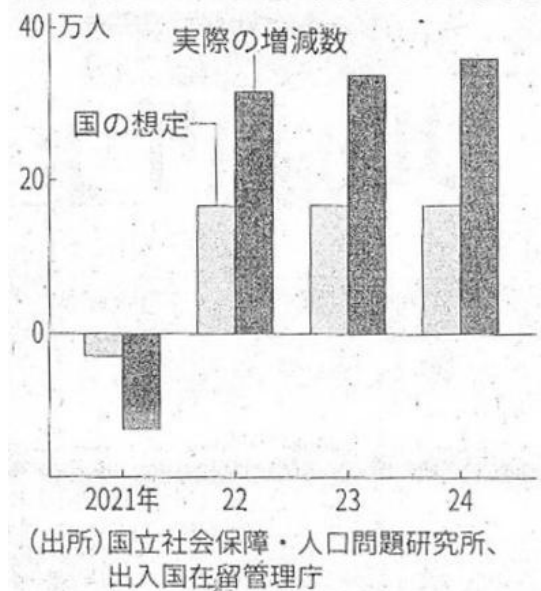
- 03/15・在留外国人、最多 376 万人 昨年末 増加ペース、想定の 2 倍 <1>
・金 3000 ドル、高騰「第 3 の波」1 年で 1000 ドル上昇、ドル信任に揺らぎ <2>
- 03/16・米株安、企業業績を警戒 2 年ぶり収監下げ幅 1313 ドル <3>
「トランプ不況」懸念 FRB 利下げ期待薄 割高感の修正は進む
・G7、対ロシア結束優先 外相共同声明 早期停戦へ米欧とも譲歩
- 03/18・米ホンダ車にトヨタ電池 HV 向け 関税備え現地調達へ転換
- 03/19・イスラエル、ガザ攻撃再開 帝政合意の継続困難に
・貿易黒字、2 月 5845 億円 2 ヶ月ぶり、中国向け伸びる
・米ロ、全面停戦合意できず 首脳協議 ウクライナ巡り エネ施設は攻撃停止
- 03/20・日銀総裁「引き続き利上げ」 金利 0.5%据え置き 決定会合 <4>
米関税の影響注視 円安・円高、双方にリスク
・ユーロ、対ドル急回復 欧州、国防費増が経済に恩恵 米は景気懸念 <5>
- 03/21・米物価・成長 FRB に試練 政策金利据え置き「利下げ年 2 回」は維持
パウエル議長「不確実性が異常な高まり」
トランプ氏「関税に併せ利下げを」 景気下支え要求
・ウクライナ支援決定断念 EU 首脳会議 ハンガリー反対 26 カ国で文書採択
・消費者物価、2 月 3.0%上昇 4 ヶ月ぶり伸び縮小 コメ 80%で最大
・家計の金融資産 2230 兆円 昨年末最高、株高で投信増
- 03/22・対米報復関税慎重な見方 経済学者 42%「望ましくない」 他地域との貿易に期待
・米教育省解体へ大統領令 リベラル色薄める 議会承認必要 実現は不透明
・米コロンビア大 デモ規制を強化 助成金再開へ政府に迎合
・日中韓、早期に首脳会議 外相会合 経済協力拡大へ 貿易の重要性確認 <6>
- 03/23・日中外相 水産物輸入で進展確認 「戦略互惠」の推進一致
・日中韓接近 トランプの影 高まる不確実性 懸案先送り 経済軸に協調優先
- 03/24・生活保護、過半が 65 歳以上 低年金の独居増える 年金改革の先送り響く
・韓国首相の弾劾棄却 憲法裁 大統領代行に復帰
・ガザ、死者 5 万人超 人道支援停止で危機深刻
・EV 半導体 鈍る投資 日米欧大手 延期や人員削減 生産過剰響く
- 03/25・現代自、米で 3 兆円投資 製鉄所建設など 関税回避狙う 産業空洞化の懸念
- 03/26・「BRICS は反米欧、誤解」 ブラジル外相 経済連携主眼と強調
・インド 対米関税引き下げ検討 輸入額の 55%対象
・米、黒海安全航行で合意 ロシア・ウクライナと ロシア側は条件提示
ロシア、国際決済網への復帰要求 交渉急ぐ米見透かす
- 03/27・韓国野党代表に逆転無罪 李在明氏に高裁判決 大統領選出馬へ追い風

- ・米、輸入車に関税 25% トランプ氏表明 日本も対象 来月 3 日発動へ
EU「交渉での解決模索」 欧州委員長、深い遺憾表明
- ・VW、防衛産業に参入 持ち株会社が検討 国防費増強受け
- 03/28・国内産業 13 兆円打撃 米追加関税 25% 部品も対象 輸出減で空洞化懸念
 - ・株価、米依存度で明暗 スバル 5%・ベンツ 9%安 BYD12%上昇
 - ・米国との蜜月「終わった」 カナダ首相 車関税に報復示唆
- 03/29・欧州、米製品の不買広がる テスラは販売台数 4 割減 関税策への反発強く
 - ・研究者「離米検討」75% 英誌調査 トランプ政権の締め付けで 若手で傾向顕著
 - ・米、消費減速が鮮明に 2 月 0.4%増どまり 景気停滞に現実味 NY 株 715 ドル安
- 03/30・輸入価格上がらぬはずが… ドル高一服、政権に誤算 <7>
- 03/31・ヘグセス米国防長官 防衛費増「日本、正しく決断」 指揮統制の連携に着手
 - ・日経平均、一時 1500 円超安 3 万 5500 円台、米景気に懸念
 - ・トランプ氏、3 選否定せず 憲法は禁止 「方法ある、冗談でない」

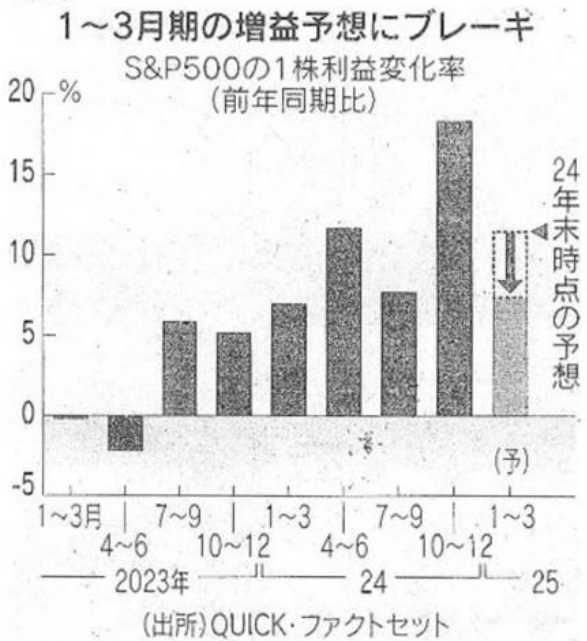
<1>



在留外国人の増加は国想定を上回る



<3>



株価急落で割高感は薄れた



<2>

金価格は直近1年ほどで1000ドル上昇



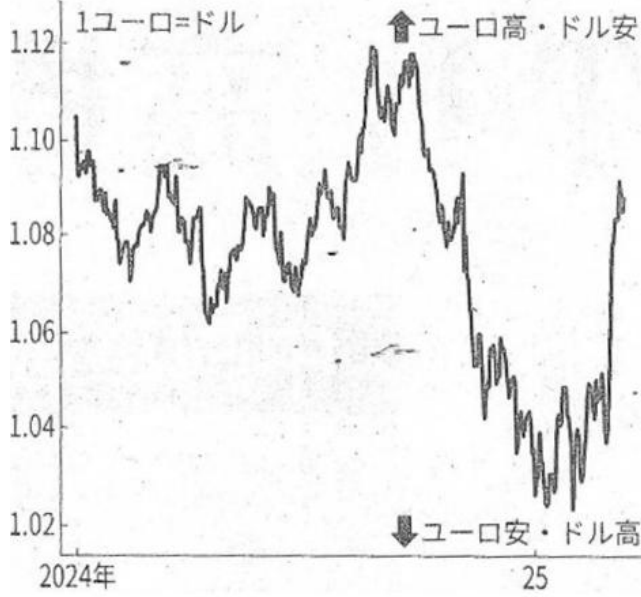
<4>

植田総裁会見での主な発言

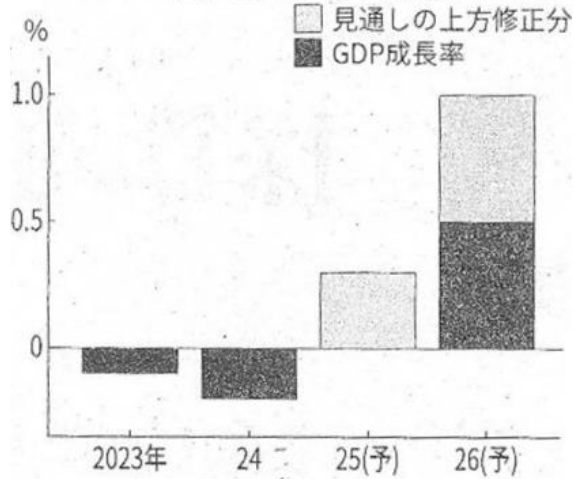
- 現在の実質金利は極めて低いことを踏まえ、経済・物価の見通しが実現していけば引き続き政策金利を引き上げる
- 米国の関税政策が及ぶ範囲が広がり、決定のスピードが上がっている。不確定なところが多い
- 春季労使交渉の第1回回答の集計はオントラック (想定通り) のなかでもやや強め
- (一時的な変動を除いた) 物価上昇率は2%を少し下回っている。ビハインド・ザ・カーブ (政策が後手に回る) のリスクは高い

<5>

ユーロが対ドルで5カ月ぶり高値に

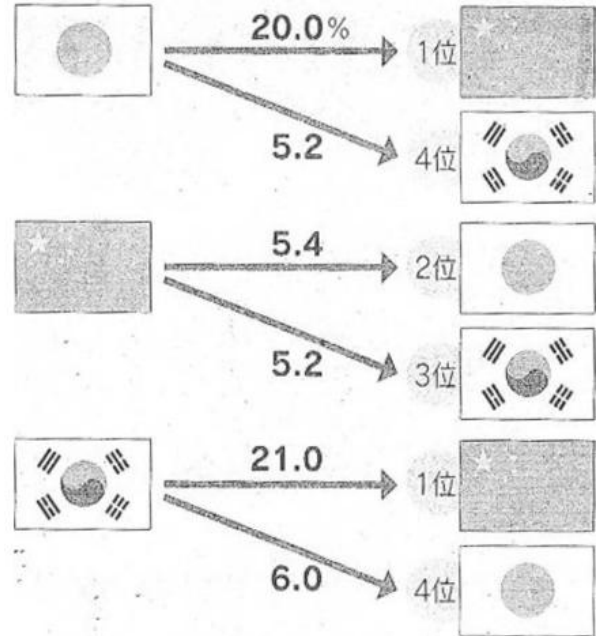


ドイツのGDP成長率見通しは 上方修正でプラス転換



<6>

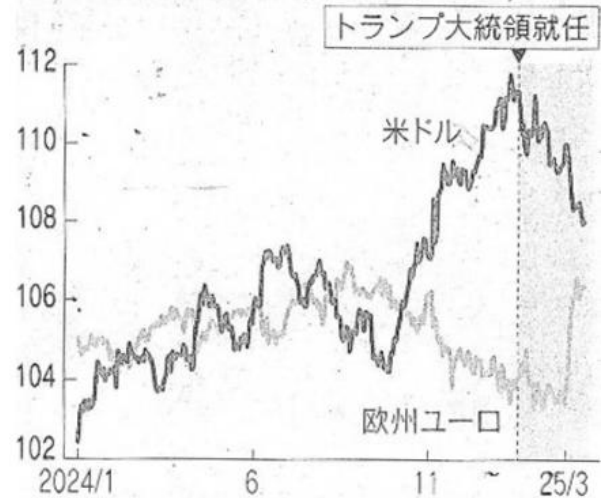
日中韓の貿易の相互依存度 (貿易総額に占める各国の比率)



(出所) 日本は財務省、中国は中国税関総署、
韓国は韓国貿易協会

<7>

ドル高一服はユーロの影響が大きい (名目実効為替レート、2020年=100)



(注) 出所は国際決済銀行(BIS)。64経済圏を対象にしたブロードベース